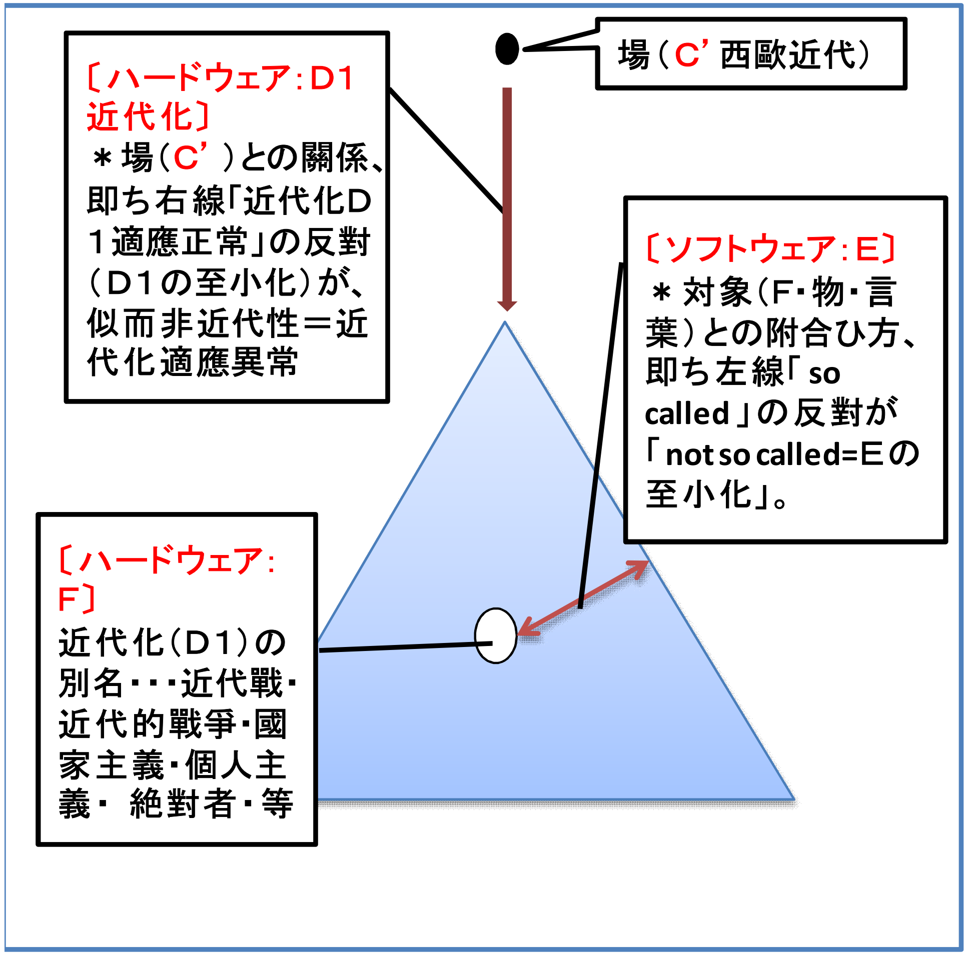
〔下文『醒めて踊れ』文で、右項の『日本および日本人』文を理解する〕
＊「近代化（實在物：D1）の必要條件は技術や社會制度（潜在的言葉：F）など、所謂『ハードウェア』のメカナイゼーション（機械化）、システマライゼーション（組織化）、コンフォーマライゼーション（劃一化）、ラショナライゼーション（合理化）等々の所謂近代化（潜在的言葉：F）に對處する精神の政治學（Eの至大化）の確立、即ち所謂『ソフトウェア』の適應能力（Eの至大化・附合ひ方・So called））にある」（全七P393上）。



〔『日本および日本人』（全三P192）：つまり『醒めて踊れ』の下地を此處に發見できる〕

＊「近代戰（F）に馴れない（not so called=Eの至小化）人間（即ち「和を原理とする」＝異質なso called手段を持つ人間）が近代的戰爭（F）に手を出した結果が、殘虐不法な戰爭を招來し（似而非近代性＝近代化適應異常）、國家主義（F）に馴れない（not so called=Eの至小化）國家が國家主義をまなんで超國家主義（似而非近代性＝近代化適應異常）になつた。同樣に、權利義務の契約（Eの至大化）にもとづく個人主義（F）に馴れない（not so called=Eの至小化）人間が、その制度（F）や法律（F）を移入（Eの至小化）すれば、それはたんなる利己主義を助長する（似而非近代性＝近代化適應異常）にしか役だたぬのです」。と同樣に絶對者でもないもの（天皇）が、無意識のうちに、西洋流の神（F）に對抗し、それに牽制されて（not so called=Eの至小化）超絶的な風貌（似而非近代性＝近代化適應異常）を呈してくる（P194）」（即ちクリスト教「絶對神」への適應異常）。